



平成27年 7月14日 NO・51

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
 TEL029-269 -2116 FAX029-269 -3160
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp
【ホームページで、カラー版が見られます】

よき友はよきライバル「交友を拓ぶ(えらぶ)」

教務主任 高星 陽二

安政の大獄で処刑された人物の中に、橋本左内という幕末の武士がいました。蘭学者であり、思想家であった左内は、この人が長生きをしていたら、世の中がもっと変わっていたものになっていただであらうといわれるぐらいの大人物だったそうです。その左内が十五歳の時に、「啓発録」という五か条の覚え書きを残しており、その中に「立志」といふ一か条があります。左内はこの中で「志を立てよ。人生の目的を立てよ。」と自分に言い聞かせています。そしてまた、社会のために役立つ人になれという志を述べています。これまで自分を育ててくれた社会に対して貢献する歳になったのだと考えていたようです。だからこそ、左内は幕末の動乱の中にあつて命をかけてよりよい社会をつくらうとして大獄で消えていきました。

その左内が、五か条の最後に挙げていることが、「交友を拓ぶ(こうゆうをえらぶ)」ことです。「よき友は、よきライバルであり、お互いに切磋琢磨して自分を高めてくれる存在である。」と彼は述べています。このことについて、あるアスリートの言葉を思い出します。長野で冬季オリンピックが開催された時のことです。

スピードスケートでは、清水宏保と堀井学の活躍とメダル獲得への期待におおいに盛り上がりました。清水宏保は、堀井学を目標とし、堀井学は、清水宏保を最大のライバルと考えていました。結果は、清水宏保が一位で金メダル獲得、堀井学は、九位と入賞にも及びませんでした。金メダリストの清水宏保は思うように滑れなかった堀井学のことをこう言っています。「堀井さんがいたから金メダルがとれた。」堀井学も、「僕の収穫は清水のメダル。」

一心に、勝利の実現に向けて切磋琢磨しあつた

仲だからこそ、胸を打つ言葉です。さて、中学生時代を考えます。中学生時代は、可能性を秘めた時代です。可能性とは潜在的な能力です。潜在的であるがゆえに、多くの挑戦の中から引き出されるものでもあるのです。学習への挑戦でも、部活動への挑戦でもよいでしょう。挑戦する心をたくましくするものは何でしょう。それは、切磋琢磨し合い、つらさや喜びを分かち合う友の存在です。



三年生、園児たちと交流

昨日は3年1・2組、本日は3年3組の生徒たちが、稲荷第一幼稚園並びに保育園を訪れ、園児たちと交流した。

園児たちは、中学生のお兄さんやお姉さんに興味津々ではあるが、最初はちょっと怖々という感じがした。でもすぐに慣れて、とても楽しそうに遊びだした。サッカーをする子、雲梯をする子、ブランコをする子、走り回る子、砂場で砂のケーキなどを作る子、いろいろな場所で、いろいろなことをしながらしばらくの間楽しい時間を過ごしていた。中学生たちの顔が、いつもより、ずっとずっと優しくなったのが印象的だ。

中には、一人で三人も四人も面倒をみている生徒もいた。その生徒は、小さな園児たちに自分の背丈を合わせて、座って話を聴いてあげていた。

中学生たちの園児への優しい関わり方を見て、見ている者もとても幸せな気持ちになれた。



2015/7/13